

1 平成30年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類が1万4,170ha（対前年産比98%）、球根類が287ha（同94%）、鉢ものの類が1,605ha（同98%）、花壇用苗ものの類が1,378ha（同98%）となった。

出荷量は、切り花類が35億3,400万本（同95%）、球根類が8,560万球（同94%）、鉢ものの類が2億960万鉢（同95%）、花壇用苗ものの類が5億9,840万本（同98%）となった。

表1 平成30年産花きの類別作付（収穫）面積及び出荷量（全国）

類別	作付（収穫）面積	出荷量	対前年産比	
			作付（収穫）面積	出荷量
切り花類	14,170 ha	353,400 万本（球・鉢）	98 %	95 %
球根類	287 ha	8,560 万球	94 %	94 %
鉢ものの類	1,605 ha	20,960 万鉢	98 %	95 %
花壇用苗ものの類	1,378 ha	59,840 万本	98 %	98 %

注：1 平成30年産は主産県を対象に実施しており、全国値については主産県の結果を基に推計した。

2 球根類及び鉢ものの類は、収穫面積である。

3 出荷量の単位は、切り花類及び花壇用苗ものの類が万本、球根類が万球、鉢ものの類が万鉢である。

2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

作付面積は1万4,170haで、前年産に比べ290ha（2%）減少した。これは、高齢化等により規模を縮小したこと等による。

出荷量は35億3,400万本で、前年産に比べ1億7,000万本（5%）減少した。これは、生育期間の天候不順により生育が抑制されたことやきく等において台風被害が発生したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が17%で最も高く、次いで沖縄県が8%、福岡県が6%となっている。

品目別出荷量割合は、きくが40%、ばら及びカーネーションがそれぞれ7%、切り枝が6%となっており、この4品目で全体の6割を占めている。

図1 切り花類の作付面積及び出荷量の推移

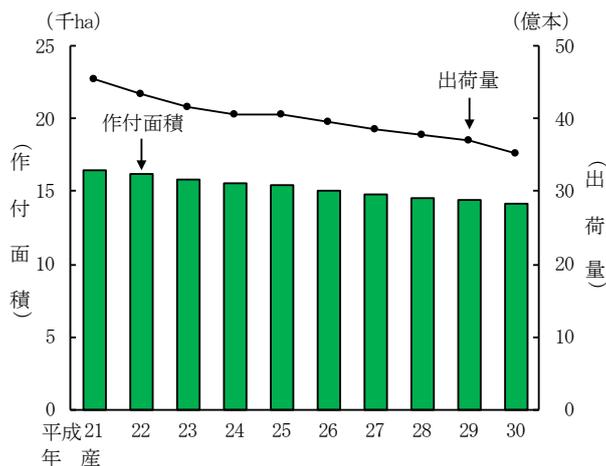
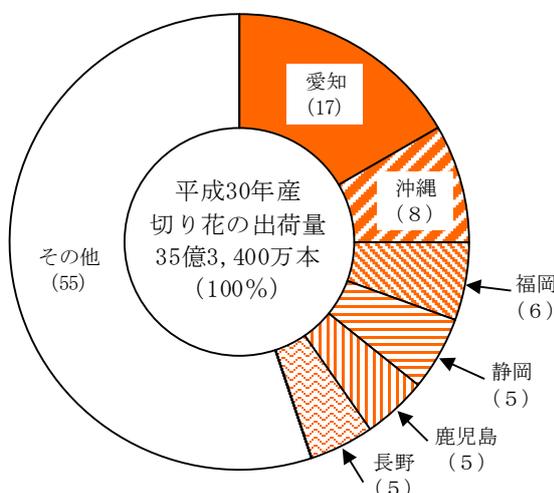


図2 切り花類の都道府県別出荷量割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下図46まで同じ。）。

図3 切り花類の品目別出荷量割合

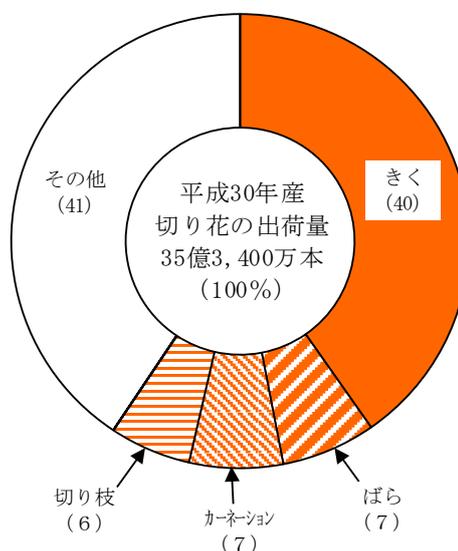


表2 平成30年産切り花類の作付面積及び出荷量（全国）

品 目	作 付 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			作 付 面 積	出 荷 量
	ha	万本	%	%
切 り 花 類	14,170	353,400	98	95
うち き く	4,663	142,400	98	95
カ ー ネ ー シ ョ ン	290	23,410	98	97
ば ら	325	23,600	97	95
り ん ど う	432	8,890	100	102
宿 根 か す み そ う	201	4,960	99	99
洋 ラ ン 類	124	1,530	97	99
ス タ ー チ ス	186	12,170	99	97
ガ ー ベ ラ	88	14,340	98	91
トルコギキョウ	426	9,830	98	97
ゆ り	713	13,030	96	95
アルストロメリア	78	5,470	98	99
切 り 葉	647	11,310	99	92
切 り 枝	3,674	20,310	101	98

注：切り花類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。

ア きく

作付面積は4,663haで、前年産に比べ95ha（2%）減少した。

出荷量は14億2,400万本で、前年産に比べ8,000万本（5%）減少した。これは、沖縄県において台風被害が発生したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が32%で最も高く、次いで沖縄県が18%、福岡県が7%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図4 きくの作付面積及び出荷量の推移

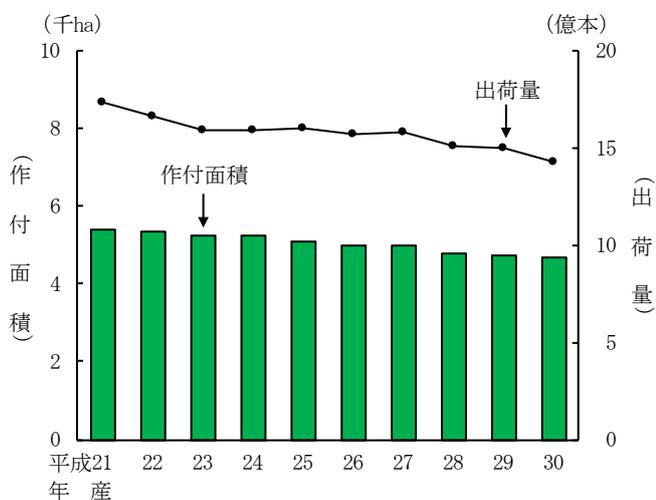
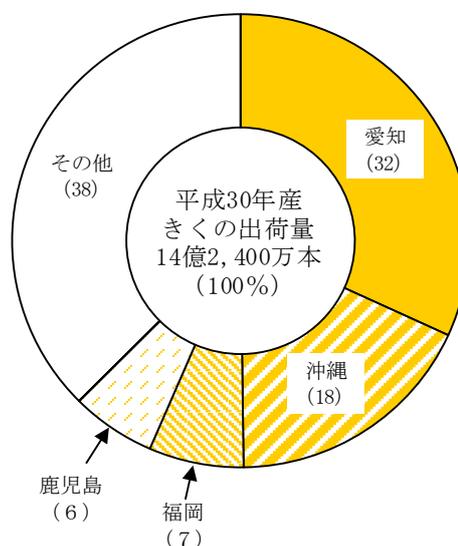


図5 きくの都道府県別出荷量割合



イ カーネーション

作付面積は290haで、前年産に比べ5ha（2％）減少した。

出荷量は2億3,410万本で、前年産に比べ610万本（3％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が21%で最も高く、次いで愛知県が18%、北海道が10%となっており、この3道県で全国の約5割を占めている。

図6 カーネーションの作付面積及び出荷量の推移

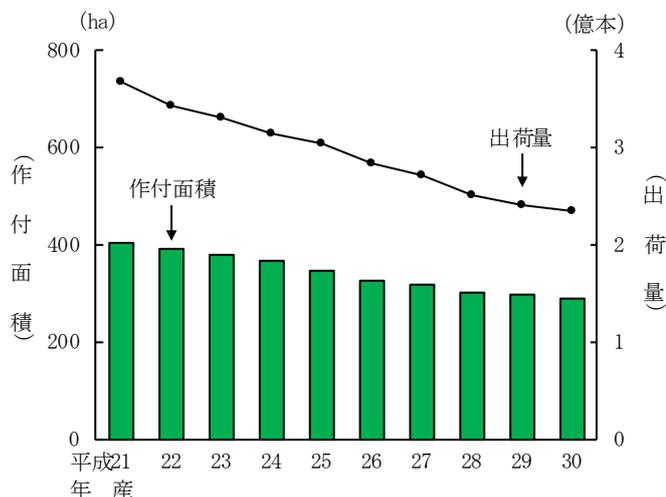
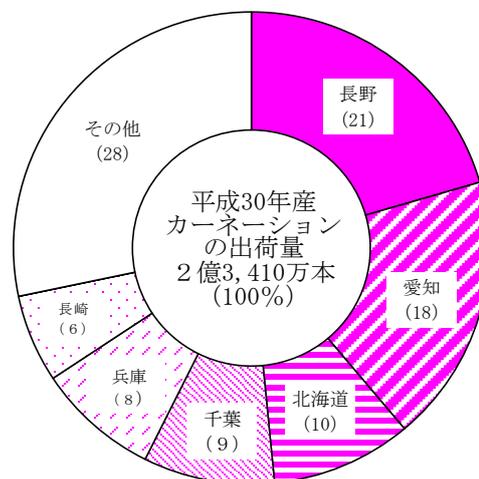


図7 カーネーションの都道府県別出荷量割合



ウ ばら

作付面積は325haで、前年産に比べ11ha（3％）減少した。

出荷量は2億3,600万本で、前年産に比べ1,220万本（5％）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が18%で最も高く、次いで静岡県が9%、山形県及び福岡県がそれぞれ7%となっている。

図8 ばらの作付面積及び出荷量の推移

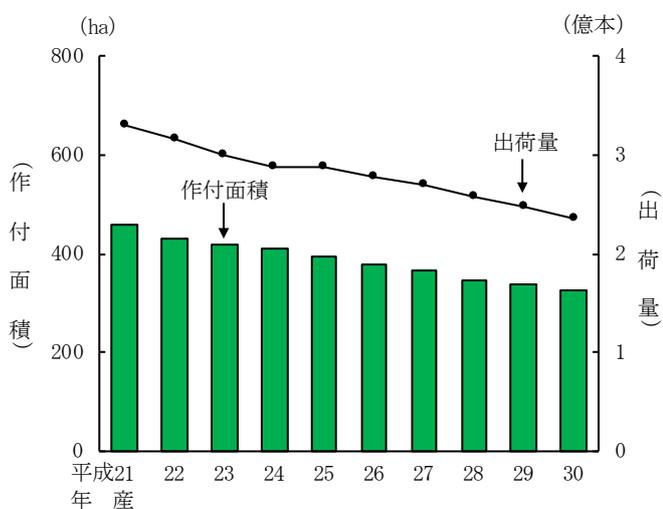
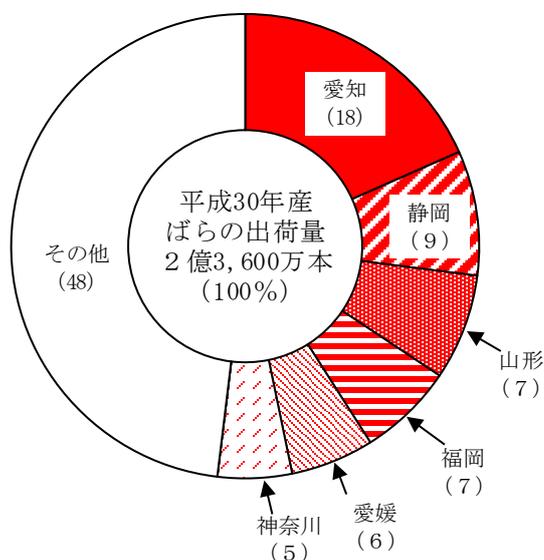


図9 ばらの都道府県別出荷量割合



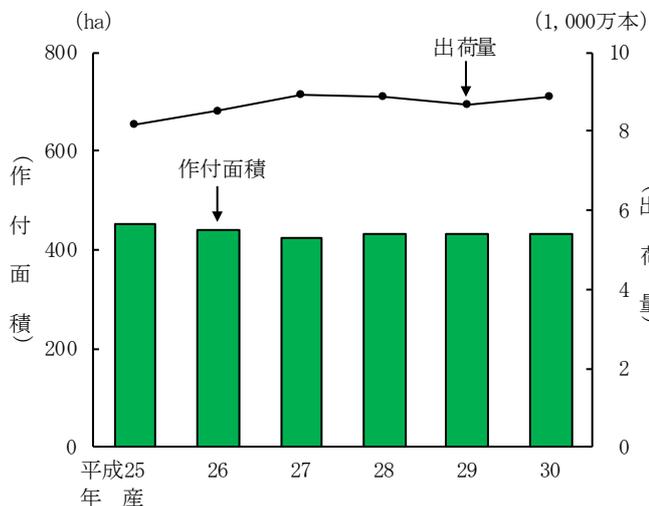
エ リンドウ

作付面積は432haで、前年産並みとなった。

出荷量は8,890万本で、前年産に比べ200万本（2%）増加した。

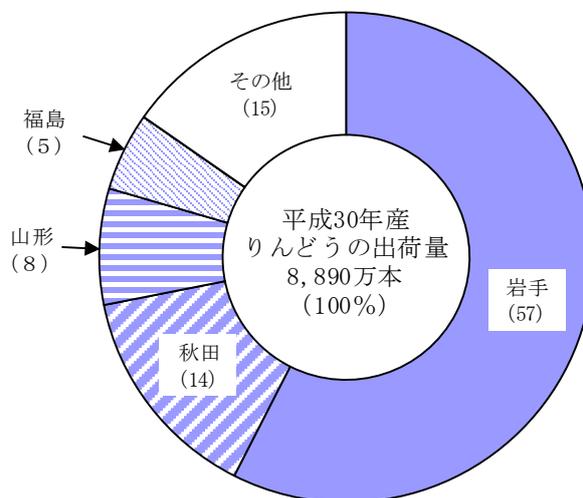
都道府県別出荷量割合は、岩手県が57%で最も高く、次いで秋田県が14%、山形県が8%となっており、この3県で全国の約8割を占めている。

図10 リンドウの作付面積及び出荷量の推移



注：調査対象品目の要件を満たしたため、平成25年産から「リンドウ」を調査対象に追加した。

図11 リンドウの都道府県別出荷量割合



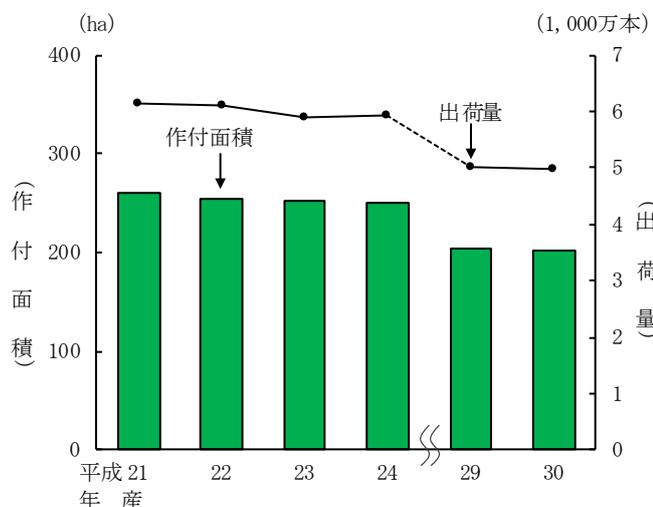
オ 宿根かすみそう

作付面積は201haで、前年産に比べ3ha（1%）減少した。

出荷量は4,960万本で、前年産に比べ40万本（1%）減少した。

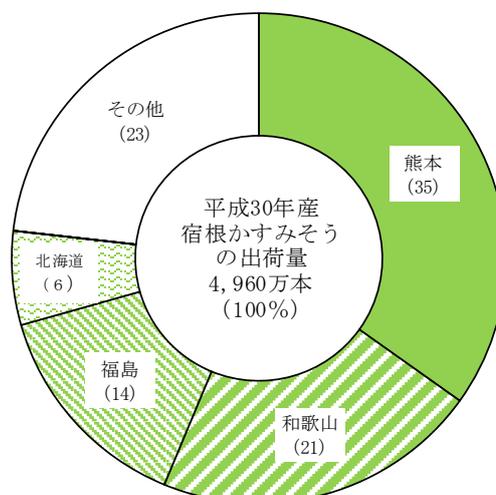
都道府県別出荷量割合は、熊本県が35%で最も高く、次いで和歌山県が21%、福島県が14%となっており、この3県で全国の7割を占めている。

図12 宿根かすみそうの作付面積及び出荷量の推移



注：「宿根かすみそう」については、調査対象品目の要件を満たさなくなったことにより平成25年産から調査対象から外れたものの、平成29年産から再び要件を満たしたため、調査対象に追加した。

図13 宿根かすみそうの都道府県別出荷量割合



カ 洋ラン類

作付面積は124haで、前年産に比べ4ha（3％）減少した。

出荷量は1,530万本で、前年産に比べ10万本（1％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、福岡県が16%で最も高く、次いで徳島県が14%、沖縄県が11%となっている。

図 14 洋ラン類の作付面積及び出荷量の推移

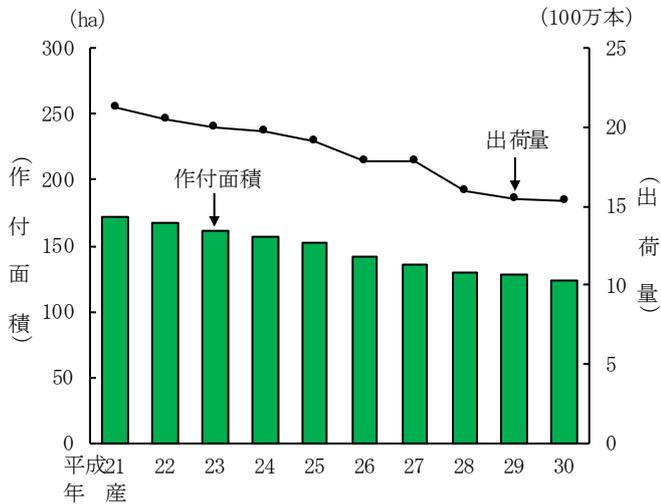
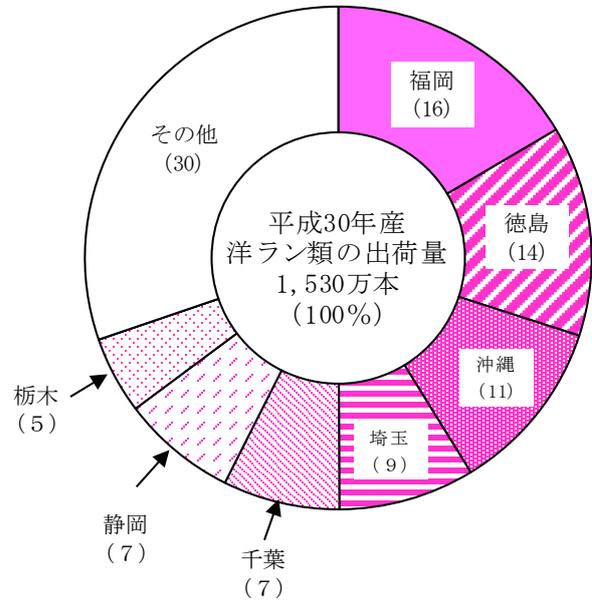


図 15 洋ラン類の都道府県別出荷量割合



キ スターチス

作付面積は186haで、前年産に比べ1ha（1％）減少した。

出荷量は1億2,170万本で、前年産に比べ320万本（3％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、和歌山県が51%で最も高く、次いで北海道が29%、長野県が7%となっており、この3道県で全国の約9割を占めている。

図 16 スターチスの作付面積及び出荷量の推移

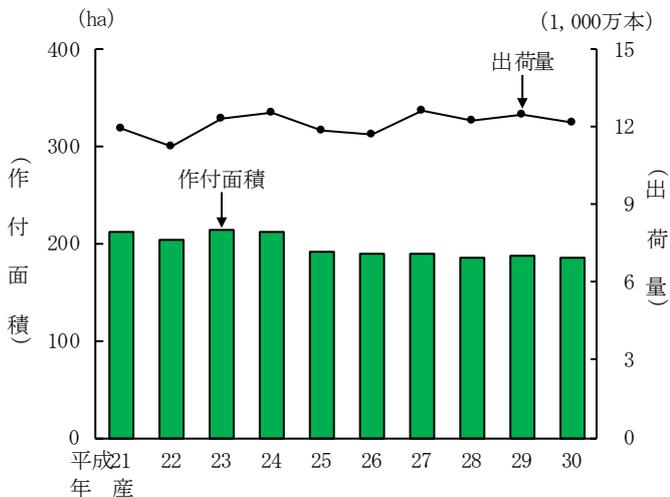
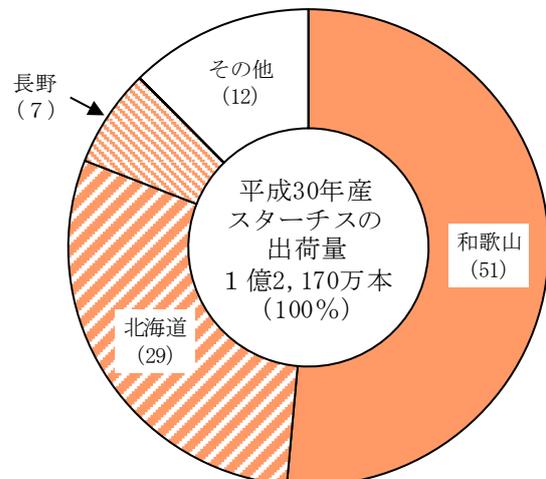


図 17 スターチスの都道府県別出荷量割合



ク ガーベラ

作付面積は88haで、前年産に比べ2ha（2％）減少した。

出荷量は1億4,340万本で、前年産に比べ1,430万本（9％）減少した。これは、夏期の高温により生育が抑制されたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が41％で最も高く、次いで福岡県が15％、和歌山県が9％となっており、この3県で全国の約7割を占めている。

図 18 ガーベラの作付面積及び出荷量の推移

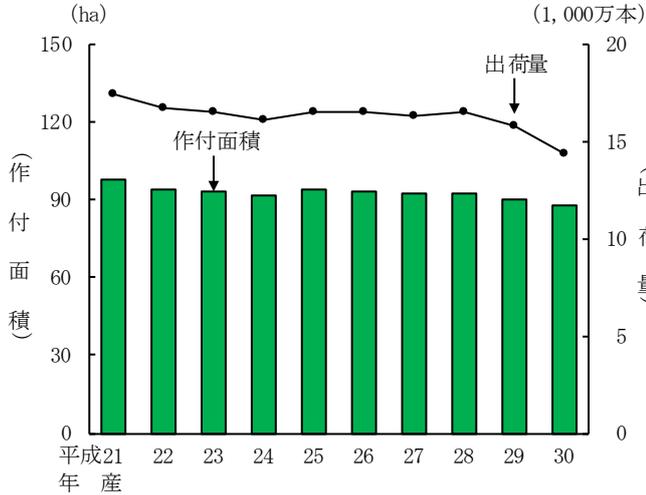
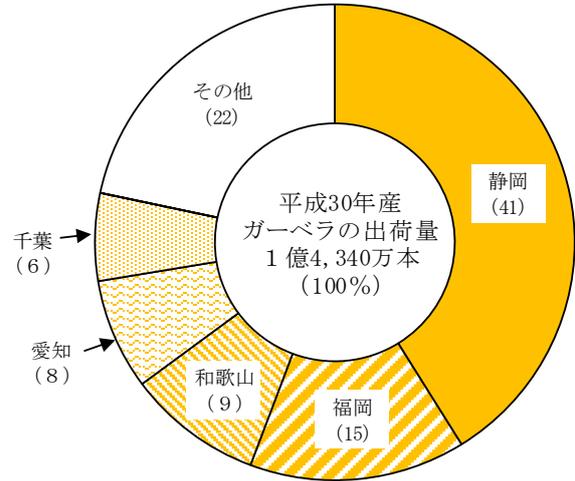


図 19 ガーベラの都道府県別出荷量割合



ケ トルコギキョウ

作付面積は426haで、前年産に比べ8ha（2％）減少した。

出荷量は9,830万本で、前年産に比べ270万本（3％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が14％で最も高く、次いで熊本県が12％、福岡県が9％となっている。

図 20 トルコギキョウの作付面積及び出荷量の推移

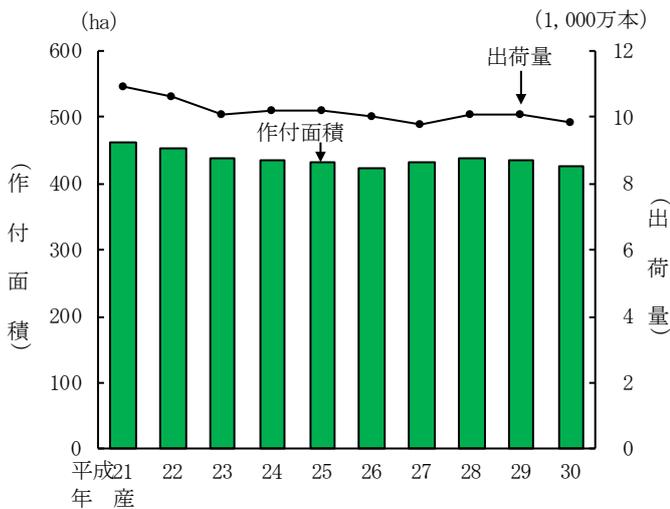
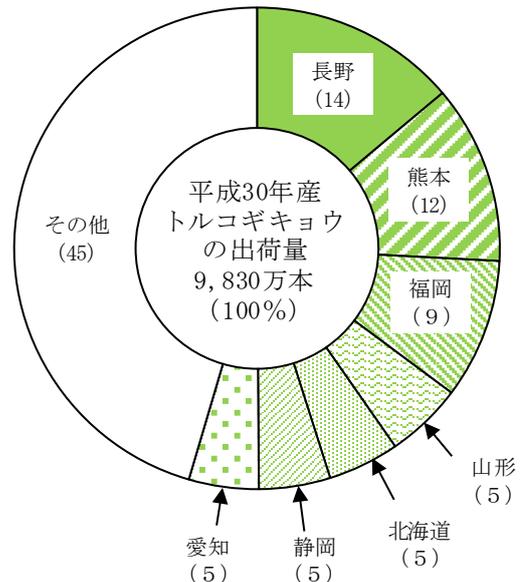


図 21 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合



コ ゆり

作付面積は713haで、前年産に比べ28ha（4％）減少した。

出荷量は1億3,030万本で、前年産に比べ730万本（5％）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が20％で最も高く、次いで高知県が12％、新潟県が10％となっている。

図 22 ゆりの作付面積及び出荷量の推移

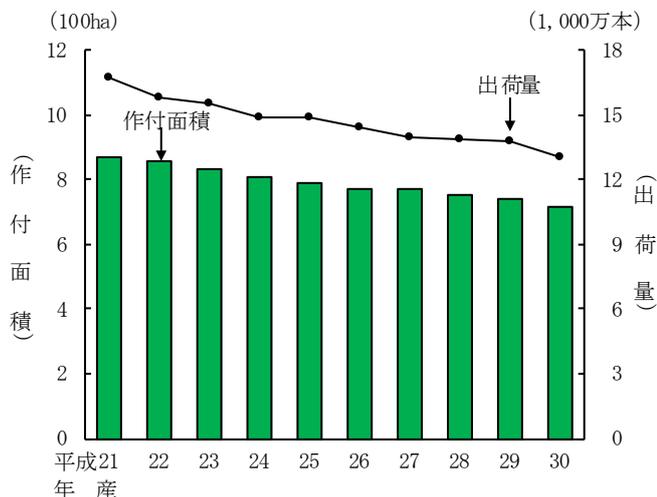
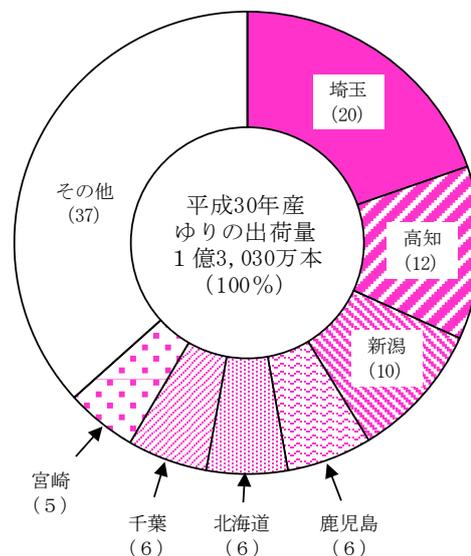


図 23 ゆりの都道府県別出荷量割合



サ アルストロメリア

作付面積は78haで、前年産に比べ1ha（2％）減少した。

出荷量は5,470万本で、前年産に比べ80万本（1％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が35％で最も高く、次いで愛知県が18％、山形県が12％となっており、この3県で全国の約7割を占めている。

図 24 アルストロメリアの作付面積及び出荷量の推移

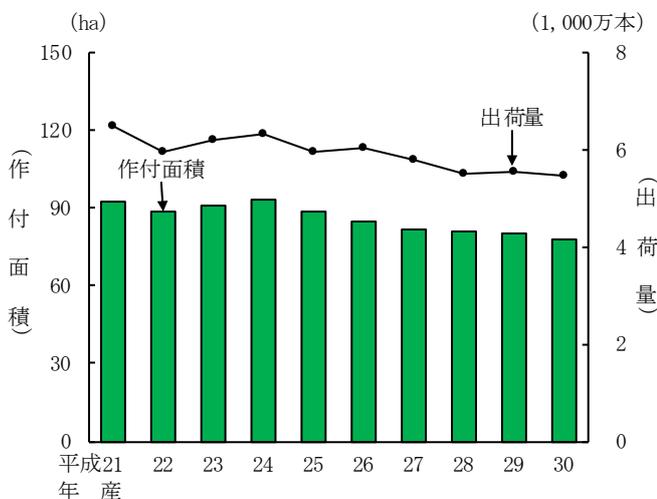
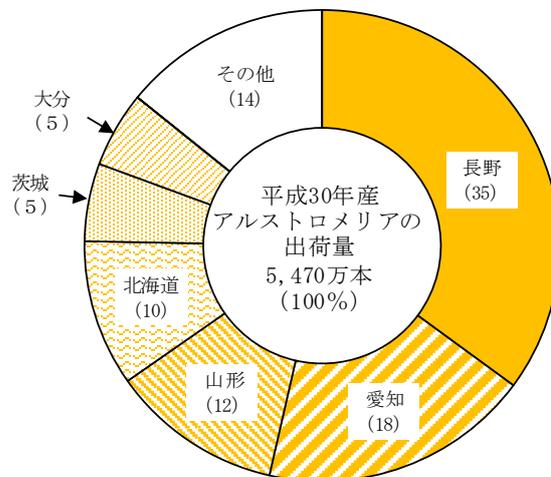


図 25 アルストロメリアの都道府県別出荷量割合



シ 切り葉

作付面積は647haで、前年産に比べ8ha（1％）減少した。

出荷量は1億1,310万本で、前年産に比べ970万本（8％）減少した。これは、主産地において台風被害が発生したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、東京都が33％で最も高く、次いで沖縄県が24％、鹿児島県が12％となっており、この3都県で全国の約7割を占めている。

図 26 切り葉の作付面積及び出荷量の推移

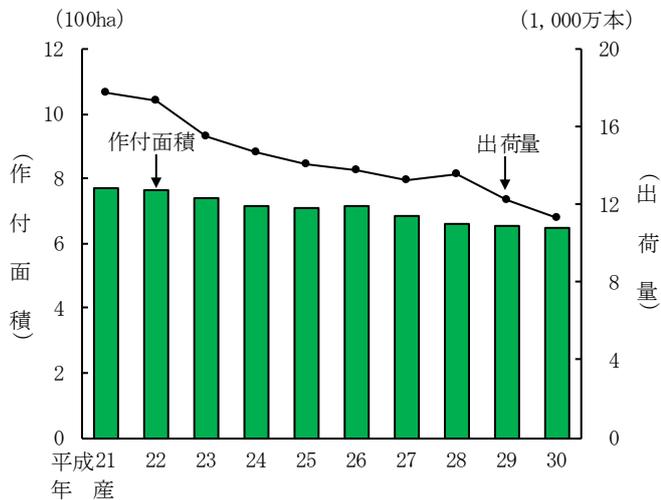
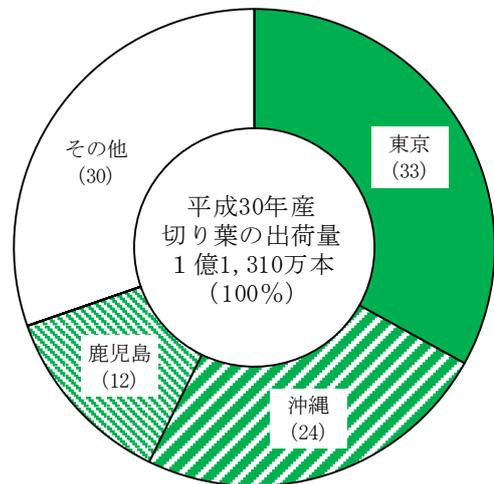


図 27 切り葉の都道府県別出荷量割合



ス 切り枝

作付面積は3,674haで、前年産に比べ45ha（1％）増加した。

出荷量は2億310万本で、前年産に比べ330万本（2％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が16％で最も高く、次いで茨城県が15％、和歌山県が9％となっている。

図 28 切り枝の作付面積及び出荷量の推移

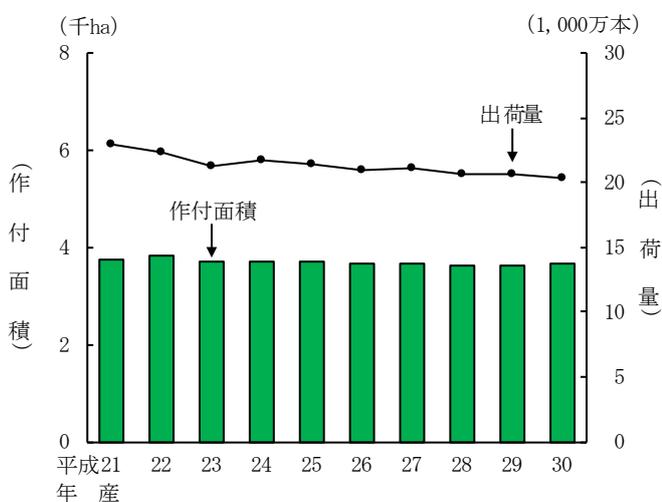
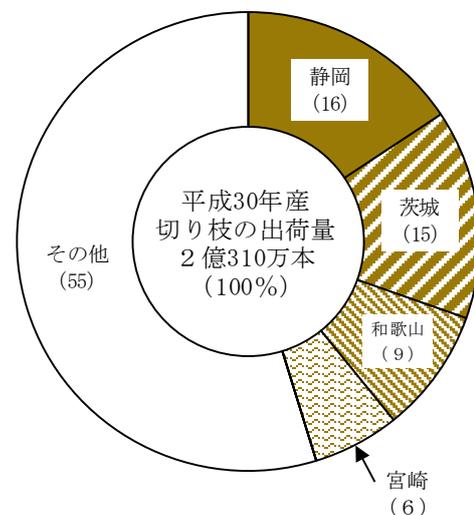


図 29 切り枝の都道府県別出荷量割合



(2) 球根類

収穫面積は287haで、前年産に比べ17ha（6%）減少した。これは、高齢化等により規模を縮小したこと等による。

出荷量は8,560万球で、前年産に比べ550万球（6%）減少した。これは、収穫面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、鹿児島県が27%で最も高く、次いで新潟県が18%、富山県が17%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図 30 球根類の収穫面積及び出荷量の推移

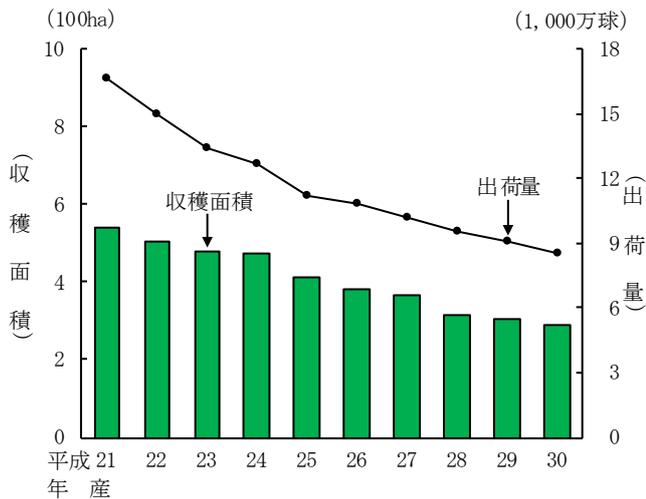


図 31 球根類の都道府県別出荷量割合

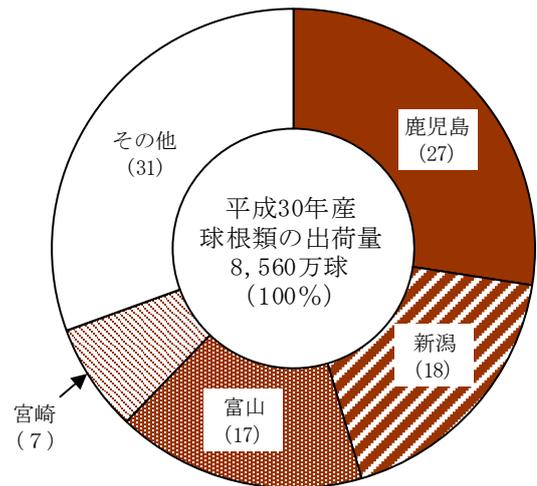


表 3 平成30年産球根類の収穫面積及び出荷量（全国）

品 目	収 穫 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			収 穫 面 積	出 荷 量
球 根 類	ha	万球	%	%
	287	8,560	94	94

(3) 鉢ものの類

収穫面積は1,605haで、前年産に比べ38ha（2%）減少した。これは、高齢化等により規模を縮小したこと等による。

出荷量は2億960万鉢で、前年産に比べ1,160万鉢（5%）減少した。これは、生育期間の天候不順により生育が抑制されたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が22%で最も高く、次いで埼玉県が11%、岐阜県が8%となっている。

品目別出荷量割合は、花木類が20%、観葉植物が19%、シクラメンが8%、洋ラン類が7%となっている。

図 32 鉢ものの類の収穫面積及び出荷量の推移

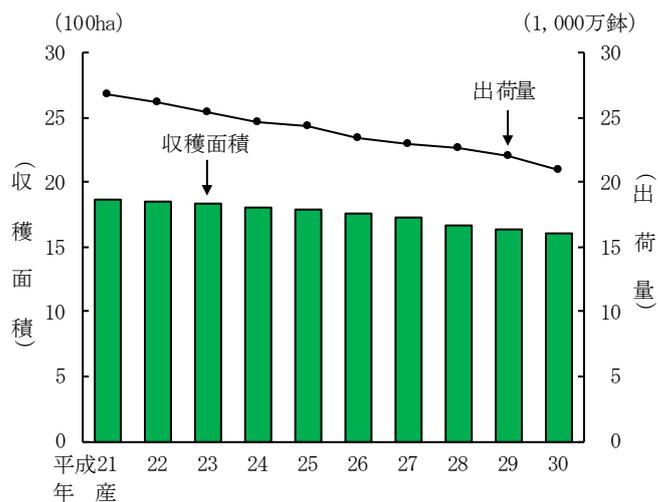


図 33 鉢ものの類の都道府県別出荷量割合

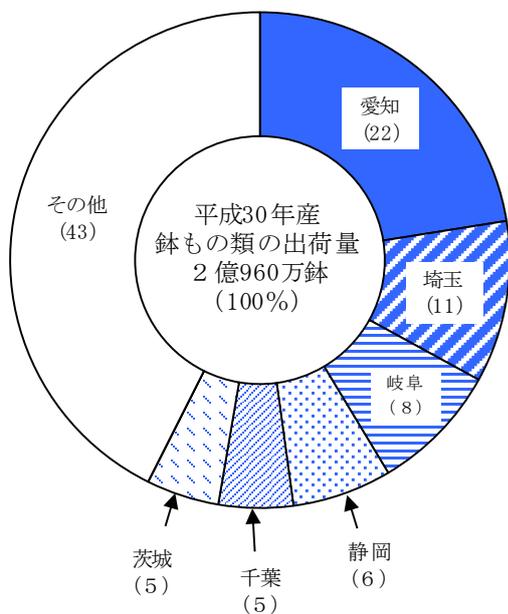


図 34 鉢ものの類の品目別出荷量割合

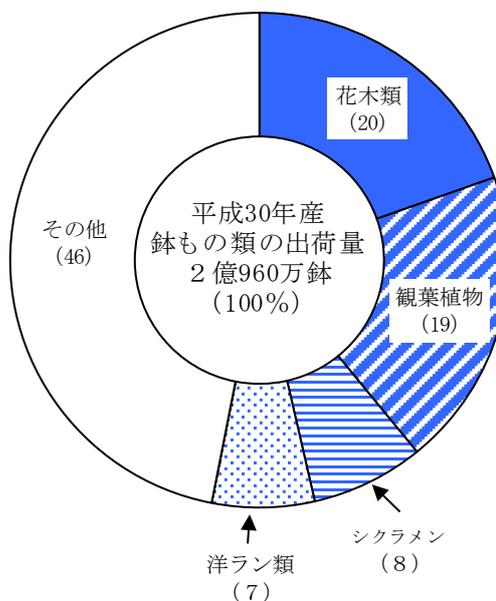


表 4 平成30年産鉢ものの類の収穫面積及び出荷量（全国）

品目	収穫面積	出荷量	対前年産比	
			収穫面積	出荷量
鉢ものの類	ha	万鉢	%	%
鉢ものの類	1,605	20,960	98	95
うちシクラメン	177	1,600	98	99
洋ラン類	187	1,450	98	99
観葉植物	294	4,080	97	94
花木類	373	4,150	97	96

注：鉢ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。

ア シクラメン

収穫面積は177haで、前年産に比べ4 ha（2％）減少した。

出荷量は1,600万鉢で、前年産に比べ20万鉢（1％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が15％で最も高く、次いで愛知県が9％、千葉県及び栃木県がそれぞれ6％となっている。

図 35 シクラメンの収穫面積及び出荷量の推移

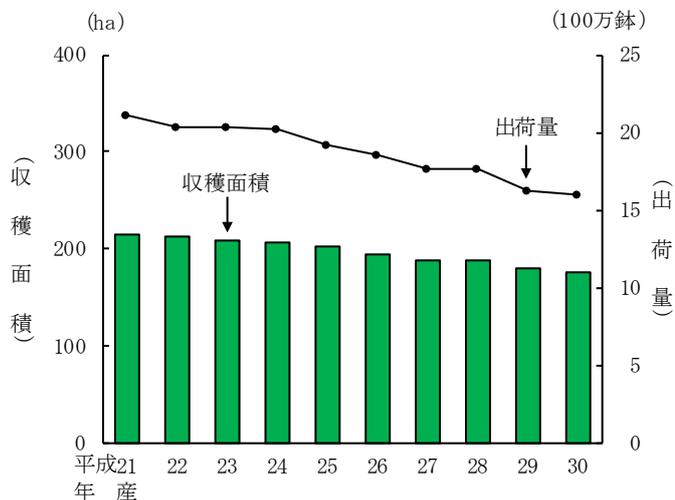
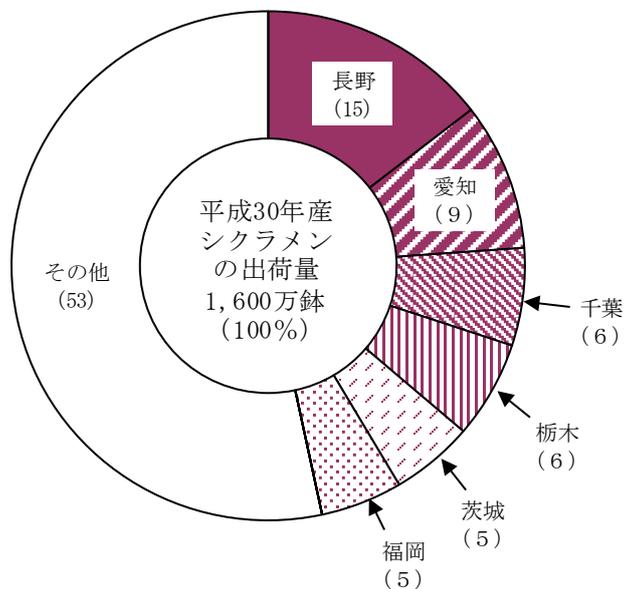


図 36 シクラメンの都道府県別出荷量割合



イ 洋ラン類

収穫面積は187haで、前年産に比べ3 ha（2％）減少した。

出荷量は1,450万鉢で、前年産に比べ20万鉢（1％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が23％で最も高く、次いで熊本県及び福岡県がそれぞれ10％となっている。

図 37 洋ラン類の収穫面積及び出荷量の推移

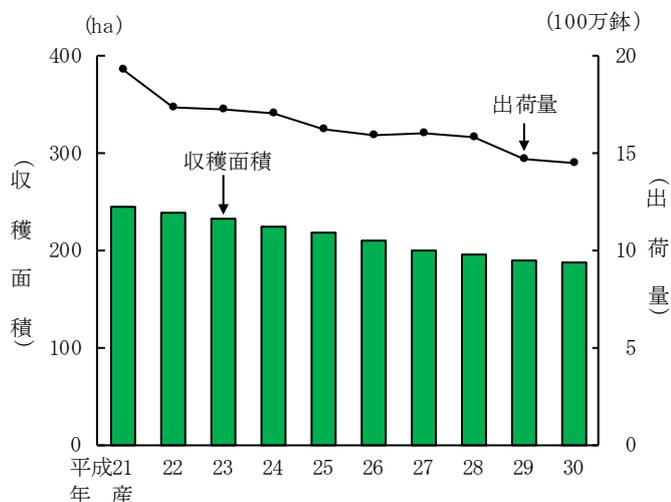
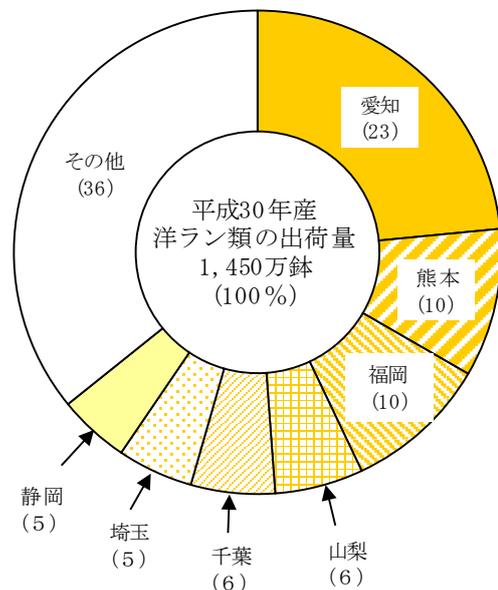


図 38 洋ラン類の都道府県別出荷量割合



ウ 観葉植物

収穫面積は294haで、前年産に比べ10ha（3％）減少した。

出荷量は4,080万鉢で、前年産に比べ240万鉢（6％）減少した。これは、収穫面積が減少したことに加え、生育期間の天候不順により生育が抑制されたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が49％で最も高く、次いで静岡県が11％となっており、この2県で全国の6割を占めている。

図 39 観葉植物の収穫面積及び出荷量の推移

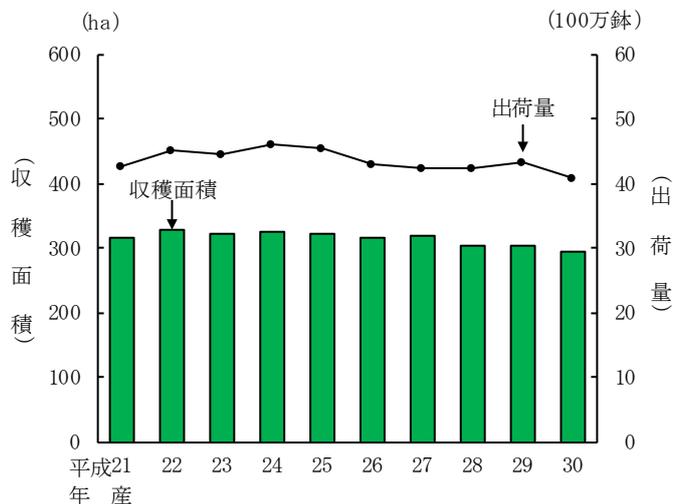
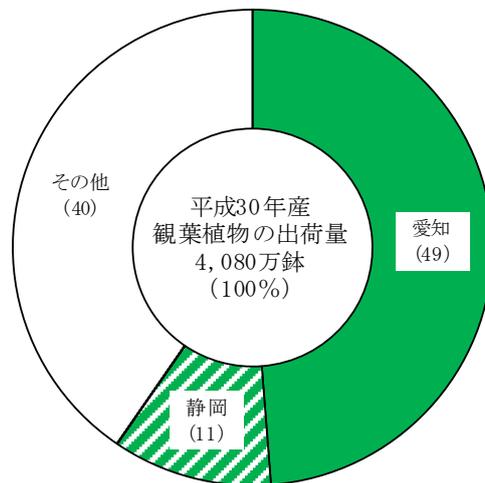


図 40 観葉植物の都道府県別出荷量割合



エ 花木類

収穫面積は373haで、前年産に比べ10ha（3％）減少した。

出荷量は4,150万鉢で、前年産に比べ180万鉢（4％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が29％で最も高く、次いで新潟県が17％、岐阜県が10％となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図 41 花木類の収穫面積及び出荷量の推移

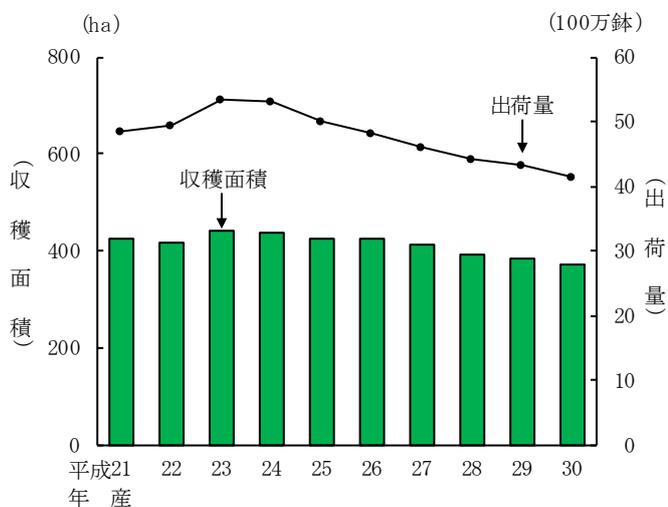
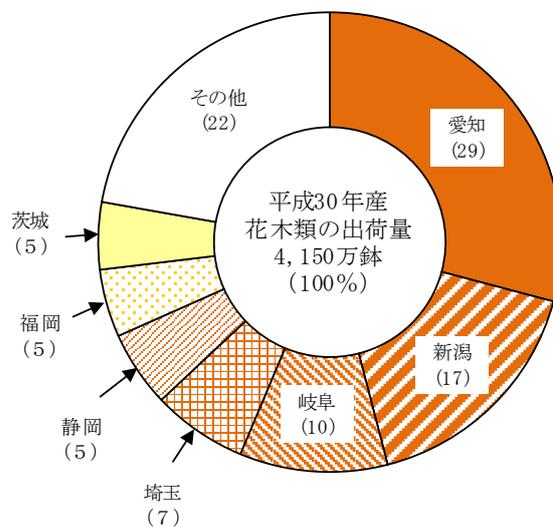


図 42 花木類の都道府県別出荷量割合



(4) 花壇用苗もの類

作付面積は1,378haで、前年産に比べ23ha（2％）減少した。これは、高齢化等により規模を縮小したことや他作物へ転換したこと等による。

出荷量は5億9,840万本で、前年産に比べ1,120万本（2％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が9％で最も高く、次いで千葉県及び愛知県がそれぞれ7％となっている。

図 43 花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量の推移

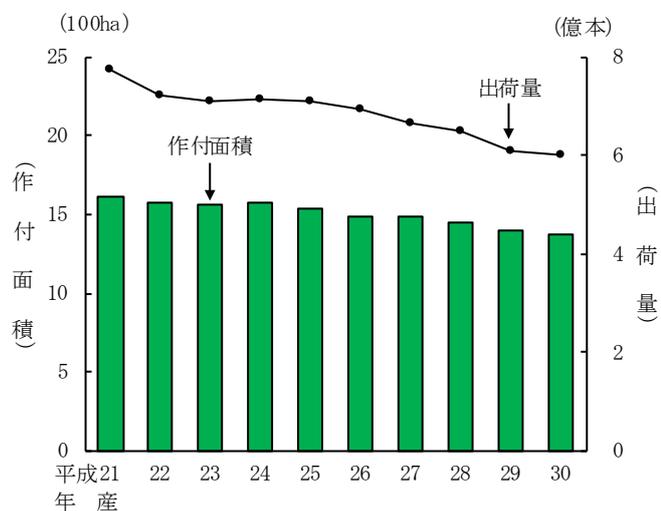
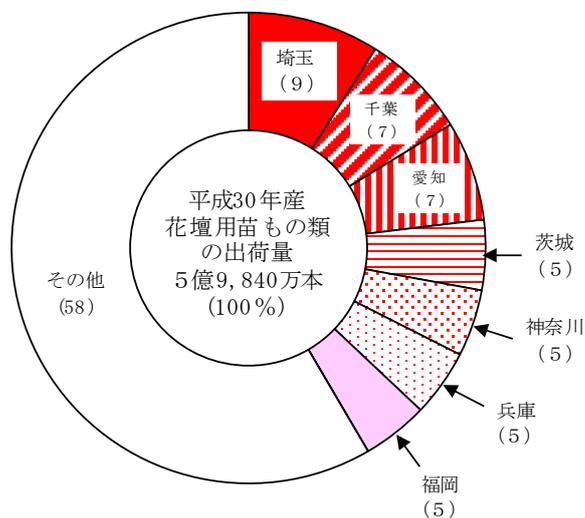


図 44 花壇用苗もの類の都道府県別出荷量割合



このうち、パンジーの作付面積は257haで、前年産に比べ10ha（4％）減少した。出荷量は1億2,310万本で、前年産に比べ600万本（5％）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が8％で最も高く、次いで神奈川県が7％、奈良県が6％となっている。

図 45 パンジーの作付面積及び出荷量の推移

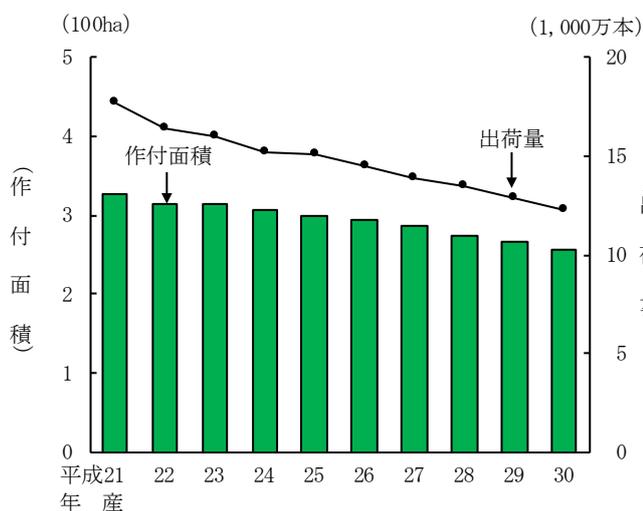


図 46 パンジーの都道府県別出荷量割合

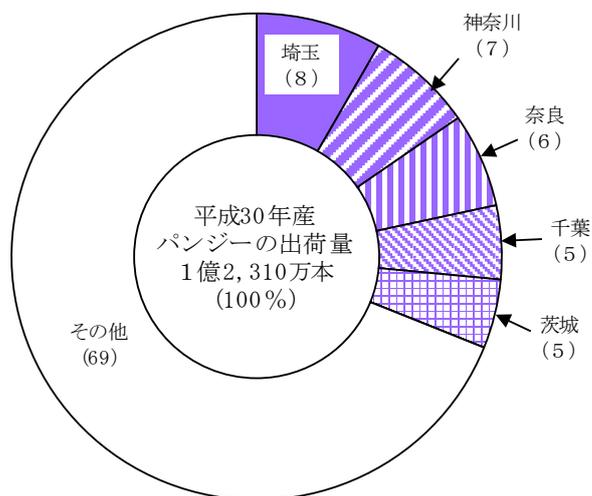


表 5 平成30年産花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量（全国）

品 目	作 付 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			作 付 面 積	出 荷 量
花 壇 用 苗 も の 類	ha	万本	%	%
	1,378	59,840	98	98
う ち パ ン ジ ー	257	12,310	96	95

注：花壇用苗もの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。